

御訪欧小型シート切り抜き切手の多数貼り

永吉 秀夫

小型シートの切り抜き切手貼りエンタィアというものは、お年玉切手シートの場合を除き入手しにくいものです。小型シートは記念品として退蔵してもらうために発行されたものですから、それをもっともなことです。物好きな収集家が無理に使用したものが残っているだけです。

紹介品も著名収集家間の郵便物ですが、郵便物として残すことを目的として作ったものではなく、たまたま差し出す必要のあった郵便物に、手元に持てあましていた切手をいっぱい貼ったという感じです。

特殊扱い料金のみ先行改訂された「1971年暫定期間」中に差し出された書留速達便に、小型シート切り抜きの15円切手7枚と90円普通切手が貼られていて、それらの額面合計は195円です。必要料金を計算すると、書留料100円、速達料70円に旧定形書状料金15円を加えて185円となるところで、10円過納です。

封筒サイズは定形なので、2倍重量であったとしても料金は20円で、必要料金は190円です。本当に195円料金だったとすれば、あとの5円は3000円以上の要償額2000円ごと1円ずつ加わる書留増料金しかありません。5倍要償増(要償額13001~15000円)の2倍重量便、または10倍要償増(要償額23001~25000円)の基本重量便ということになります。

しかし収集家の差し出しですから、小型シート切り抜き切手を貼れるだけ貼った上で、過納を承知で手持ちの普通切手を貼った可能が大きいと思います。料金185円の基本重量便ならば必要差額は80円ですが、収集家なら80円切手くらいもっていたでしょう。料金190円の2倍重量便で、85円切手のかわりに90円を貼ったといったところでしょうか。



書留速達便 加須 S46(1971).10.26 → 東京